づくりを語る

10周年記念座談会

人口急増対策に追われたこの十年

田邦昭氏（都市問題経営研究所長）
路融人氏（画家）

笹野　それでは私が司会させていただきます。本日は市制施行十周年記念座談会ということで、これからの向日市について大いに語ってもらうわけですが、まず市長さんに、いままでのまちづくりの過程で、特に思い出になっているようなことがあったら、何か一言。

市長　昭和四十二年から町の行政にたずさわっているんですが、当時は非常に人口急増の時期でして、若い世代の人が多いということで、保育所・学校の建設に追われ、しかも農地の宅地化が進んできたということで、排水施設がまかないきれず、まず河川・水路の整備をしなければならない。また当時は大雨もよくありましてね。水の関係では相当苦労した思い出があります。

笹野　昔から、水を治めるものはその国を治めるといいますが、その点では、市長は水を治めたということになりますので、これからの向日市もうまく治めていただけるんではないかと思うんですが。（笑）

市長　それと、先も申し上げましたが、人口急増で保育所とか学校などの教育施設に追われた訳ですが、特に用地取得。非常に面積の狭い土地柄でして、そのうえ地価の上昇率が高いということで用地取得が困難でして、毎日のように所有者のお宅をまわったという思い出があります。

笹野　しかし、立派な学校が続々と建ちましたからね。中路先生どうでしょう。西山の遊歩道というのでしょうか。向日市は竹が非常にきれいなんですね。先生はご専門の立場から、都市の美化という点で何か構想をお持ちでしょうか。

中路　私はここに住んで十四～五年になるんですが、向日市は高台で変化に富んで、緑が多いから非常に好きなんです。竹も美しいし。そして、水もおいしい、交通の便もいい。それだけに、開発が急激に進んできたと思うんです。しかし、もうピークではないでしょうか。あまり増えすぎると、向日市のよさが消えてしまうような気がするのですが。

笹野　藤田先生はいかがでしょう。まちづくりの専門の立場から総合的にみまして。

藤田　私はここの住人でなくて、まちづくりのお手伝いをさせていただいているのですが。このまちは、そもそも非常にヒューマンスケールなんですね。都市づくりはまず人間側から考えなければならないんです。明治以降追いつけ追いこせで、ハードな面を追いかけたとき、そこに急激に車社会になってきたものだから、まちの骨組みが、人間側から見たのでなく、いわゆるマスタープラン禍というのでしょうか。人間側から見てるまちづくりをほとんどやっていない訳です。それが今日、非常に欠陥としてでてきているんです。このまちは、全てヒューマンという立場から物事を考えていける可能性の多いまちだし、それを積み重ねてこられたし、しかも中路先生が言われたように、まち中はゆるやかな起伏があり、竹が美しいということですから、その舞台装置はみな揃っている訳です。自然を残せ残せといいますけど、そのままではだめなんで、人間が生活できる状況を整えて残さなければいけないというところが、いわゆる、特に大都市近隣の都市の人間の条件を満足さすことのむずかしさだと思います。ここは、そういうことがちょうどそのように積み重ねてこれたし、大事にしながら育てあげていくまちだと感じ、このまちが非常に好きなんです。

笹野　先生におほめをいただいて、市民としてとてもうれしいですね。市長さんに伺いたいのですが、この十年というのは本当にまちが見違えるようになりました。今から十年前と比べると、ずい分違うように思います。水だけではなくて、どうでしょう、これからどんなまちづくりをめざしていらっしゃるのでしょう。

市長　四十七年に市制施行をした訳ですが、急激に成長し都市化したまちですので、市にふさわしい都市的施設なり、風格をもったまちにしたいということで、都市的な施設整備に取り組んできた訳です。ようやく十年経った訳ですので、この年を一つの節目として、今後は立ち遅れているまちの基盤の整備なり、あるいは人が住んで本当に生きがいを感ずるようなまちとするための施策を進めていきたいと考えています。

福祉を語るにまず市民の自立を

笹野　向日市は平均年齢三十歳ぐらいという、ものすごく若いまちなんです。これから福祉の問題についてお話をお聞かせねがいたいのですが、中路先生どうでしょう。先生はまだお若いですけど、どうお考えですか。

中路　最近、福祉々といいすぎて福祉だおれしそうな気がするんです。今のお年寄りは一番恵まれていると思うのですが、私達が老人になったときは、いまのような状態ではないと思うのです。ある程度覚悟しているんじゃあないかと思いますがね。もっと若い人はどうかわかりませんがね。

笹野　先生は若いから、そういっておられますが、そういうことの考え方の教育というものを一つの福祉対策ではないかと思うのですが。

中路　そうなんです。やっぱり市を愛し、自分のまちを愛することからしたら、あんまりもたれかかったらいけないと思います。自分も自立していけるとこまで自分の力でやるという姿勢がないとだめだと思います

笹野　ですから、福祉対策というのは、そういう自立を養うという考え方も入れって、人それぞれのおかれている立場において、生きようとする意欲を伸ばすということと、自立しようというような人についても、そのような環境を整えて、そしてその上に、なお足りない部分を公共的な福祉施策でおぎなうというように行うべきではないでしょうか。

笹野　そうですね。若いまちのときから、そういったことを考えるということは、とてもいいことだと思います。

中路　私よりもっと若い方はどういう風に考えているちの成長が同じように育っていくことは郷土に対する愛着が、よそとは違うんですね。自分達が頭張れば頭張るほどまちがよくなっていく。そうなれば生きがいもあるし、お金は生きて使われる。社会福祉というのは、そういう福祉が育っていく方向にもっていく必要があるのではないでしょうか。ここは若いまちだし、今からその辺を浸透させていったらいいのでは。

笹野　ここには新旧の住民の方が入り混っているんですが、それに対応する施策をお持ちですか。

市長　確かに人口が急増して、新しい人が多くなってきた町です。従って、ふれあいの場をより多くもって、自分たちも向日市の市民であるんだという意識をもっていただいて、まちに対する愛着心によって、ま

まちづくり10年のあゆみ

ここでは、10年間のおもな出来事をあげてみました。

47ねん

▽1月　印鑑登録がカード式に▽3月　第5向陽小学校に「交通広場」オープン▽4月　消防6分団制スタート▽5月　市初の「子ども議会」開催▽11月　5万人のふれあいをテーマに第1回「向日市まつり」を開催／市民憲章・市民の花・木決まる

48ねん

▽10月　市制施行し"向日市"となる▽11月　市民会館オープン／向陽小学校創立百周年を迎える

49ねん

▽4月　第4向陽小学校開校▽5月　戸籍・住民票の謄抄本の出張サービス開始（市内3か所）／ねたきり身体障害者に火災報知器設置▽12月　市初の都市公園"勝山公園"オープン／市初の地区公民館"物集女公民館"完成

53ねん

▽4月　老人福祉センターオープン／自転車置場第1号設置（寺戸町西田中瀬・小佃川）▽6月　5万人目の市民誕生▽12月　ゴミの分別収集スタート／市史編さん事業スタート

54ねん

▽2月　市民憲章推進協議会発足／長岡宮築地跡発見（鶏冠井町山畑）▽3月　第3浄水場排水処理施設完成▽4月　声の広報を発行▽11月　公共下水道の供用開始（森本町の一部地区）

55ねん